

# 白藍塾オリジナル

## 2010入試小論文分析&解答のヒント

2010年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

### ●慶応・商学部

昨年度に見られた国語的な問題はなくなり、従来の商学部らしい問題ばかりに戻った。

Iは、作業日程の管理の仕方について書かれた文章を読んで答える問題。問1は、表の作業記号を図に当てはめる問題だが、「ダミー」と呼ばれている部分が少しわかりにくいかもしれない。これは、イ→ウの作業とイ→エの作業が終わらないとエ→オの作業が始められないことを示しているのだから、イ→ウがB、イ→エがC、エ→オがEとなる。ここさえ間違えなければ、問2は単純な足し算と引き算の問題だ。

問3は、「クリティカル・パス」という概念がよく理解できなくても、要は工事に必要な作業日程が最短になる経路のことと考えればよい。(38)の答えは言うまでもなく2だが、(39)は少し考える必要がある。作業B(つまりイ→ウ)が1日に短縮された場合、BはCより早く終わって、EはBが終わるのを待つ必要がなくなる(つまり、ダミーのウ→エは意味がなくなる)ので、答えは1となる。「クリティカル・パスに管理の重点を置く理由」については、クリティカル・パスが作業日程の最短経路であることを考えればよい。ここで遅れが出ると、工事全体が遅れてしまい、逆にここをさらに短縮できると、工事全体が短縮できる。その点をきちんと説明できていけばよい。

IIの文章は科学論について説明しているが、課題文がきちんと読み取れば、問題なく答えられる。「対象言語」と「メタ言語」の区別は少しややこしいが、簡単な例を挙げれば、「AはBである」という文を対象言語とした場合、『AはBである』という文は間違いだ』のようにその文の真偽を判定するのがメタ言語だ。その点を押さえれば、問2は答えられるはずだ。

問3は、道具主義だとどんな理論も「虚構なんだから、観測値と合わなくてもかまわない」ですんでしまうが、実在主義だとそうはいかず、観測値に合わせて理論のほうを再検討するように求められるから。問4は、対象言語とメタ言語を区別することで、「言語についての言語」という言語のあり方を導入したことだろう。

Ⅲは、まず福沢諭吉の文章の穴埋めをしなければならないが、明治初期の文章だけにとまどうかもしれない。が、冷静に文意を追えば難しいところはないし、ここで少し間違えても大した問題ではない。問1の最後の(60)(61)は、需要が $x$ 個以下でなければ $(x+1)$ 個以上になるわけだから、30が正しい。

問2は、 $C_o$ が70円、 $C_u$ が10円なので、それらを(a)の式に代入すると、0.125となる。この数字を表の「累積確率」の項目に当てはめると、対応する需要が18個と19個の間となり、最適な仕入れ個数は19個となる。

問3は、要は「統計学的に考える」ということだが、それに対応するのは「市中の人心を一体にして之を察す」以外にないだろう。

問4は、課題文全体が福沢の描く菓子屋の仕入れ方について説明しているようなものなので、その点がわかっていれば難しくはないはずだ。「その当時の時代背景を考えれば」という部分は、第二段落の「まだ経済が貧しく品物が貴重だった時代」という点をふまえて考えればよい。

今年度は、ⅠとⅢが経営学、Ⅱが科学論にかかわるやや専門的な文章ではあるが、問題そのものはここ数年の傾向と同じで、数字や記号に惑わされずに論理的に考える力があれば簡単に答えられる問題がほとんどだ。あとは時間との勝負という面があるので、落ち着いて、ケアレスミスをしないように対処することが必要だろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>